



ニューズレター 2015 年度第2号

日本音楽表現学会 (J・M・E・S) 2015 年 11 月 30 日発行

日本音楽表現学会 2016-17 年度会長・理事選挙特集

目 次

【巻頭言】	小西 潤子	2
日本音楽表現学会 2016-2017 年度会長・理事選挙	鈴木慎一郎	3
ごあいさつ		
1) 選挙管理委員会の任務		
2) 選挙日程		
3) 選挙実施方法		
4) 選挙公示		
5) 会長・理事の推薦・立候補に関する手続き (付・関係各種書式)		
6) 2016-17 年度年度会長・理事選挙被選挙・選挙有資格者について		
【随想】 雑学あれこれ	應和 恵子	8
【報告】 国際上演芸術の科学シンポジウム (ISPS に出席して)	酒井 勇也、馬田 一郎	9
新入会員紹介		10
日本音楽表現学会後援コンサート等情報		11
会員による新刊		12
『音楽表現論文執筆のしおり』刊行		12
第 14 回大会発表募集		13
事務局からの重要なお知らせとお願い		14
各種書式		15
日本音楽表現学会第 14 回 (MEM) 大会のご案内		16
2015 年度役員・委員等一覧		16
編集後記	木下 千代	16

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費：5,000 円

振込先：郵便振込口座 01370=6=78225 日本音楽表現学会

専門性をまたいで育ち、育てる

小西 潤子（副会長・民族音楽学）

昨今の高等教育機関における研究は、専門分野の細分化が著しい。その結果、高い専門性に根差した成果を得られることになったが、異分野間でのコミュニケーションが困難になったり、さらには不正行為が見抜けなくなったりといった弊害も多い。それに対して、日本音楽表現学会は、何と大きな風呂敷を広げていることか。もちろん、そのためのサポート体制も求められる。それに関して、たとえば、学会誌への投稿に際しては「しおり」で論文作成の手順を示すなどの努力が払われている。学会員が、本学会ならでの専門性をまたいだ環境を大いに生かして相互交流をしつつ研究活動を推進することが、学会そのものをさらに成長させると考える。

環境が人を育てるといふ、当然のようなことを再認識したのは、ごく最近の個人的な出来事による。大学院修士課程で在籍した京都市立芸術大学から、卒業生インタビューの依頼を受けたのである。在学生のインタビューに答えたものを大学案内やホームページで紹介するとのことだった。正直なところ、修士課程当時の私は、全然やる気のない学生だった。華々しい思い出も残っていない。「今さら何を答えたらいのか…」と思っているうちに、その日が訪れた。修了後30年近く経ったとはいえ、当該大学には複数の知人が勤務しているし、その後も日本音楽学会、東洋音楽学会に参加するため、同校の門をくぐっている。しかし、卒業生としてインタビューに答えるというのは、単なる訪問者とは全く立場が違うことに気づいた。幸い、早めに到着したので学内を歩いてみる。当時はなかった建物があることに気づく。音楽棟の場所は覚えていたが、部屋については何も記憶がない。研究室の場所さえおぼつかない。唯一、用事もないのに居心地の良い場所として出入りしていたのが、講堂の調整室だった。

それでも、インタビューが始まると、在学中の学外授業や中国西安市への学生交流団派遣など、それぞれのシーンが頭の中で再現できた。そして、「京都市立芸大で学んでよかったことは？」という予想通りの質問が出された。自分自身はポジティブではな

かったのだけど…。ただ、それまで語りつつ、各シーンにはいつも理論を学ぶ音楽学の学生と実技の学生が混じっていたことに気づいていた。当時は、「少数だから、そんなものだろう」と特段気にもかけていなかった。しかし、専攻を超えた交流を自然と生み出した環境とそこから生まれた経験は、大学教員となつてからの研究教育、大学運営、さらに日本音楽表現学会における私自身の活動に知らずと活かされていたと思う。

実は、このインタビューの依頼があったときには、受けるかどうかとても迷った。というのは、私自身が勤務先の沖縄県立芸術大学で、「活躍する卒業生」インタビュービデオ制作に関わっていたからである。沖縄県立芸術大学音楽学部は、来年度「新・音楽学部」として再編される。その目玉の一つが、旧・音楽学コースと新設の沖縄文化コースからなる音楽文化専攻である。再編後のイメージを多くの方々に周知するために、音楽や舞台など制作の現場にいる3人の卒業生に出演を依頼した。そのうちのお一人には、ビデオ制作そのものもお願いし、別のお一人にはBGMで流す音楽作品の提供を受けた。完成作品はYouTubeで一般公開し、本学美術工芸学部の卒業生がホームページにアップするという、卒業生のみなさんと共に作るものだった。「ミイラ取りがミイラになってよいのか？」という反面、インタビュー相手探しの大変さもわかっていた。「双方の大学にとってよいこと」という前向きな音楽学部長の激励を得て、ようやく引き受けたのである。

「最後に、将来のことはどうお考えですか？」と学生インタビュアーに尋ねられた。「ちょっと待つてよ、それってこちらの質問じゃない?!」と思いつつも、「まだできていないこと、やらなければいけない研究課題がたくさんありすぎるから、限られた時間の中で計画的に実行したい」ととっさに答えた。

本当にそう思っている。日本音楽表現学会には、そうした私の将来の活動も支えてくれる、ありがたい環境であり続けてくれることを期待したい。

日本音楽表現学会 2016-2017 年度会長・理事選挙

選挙管理委員長 鈴木慎一郎

ごあいさつ

2016年7月1日～2018年6月30日任期の会長・理事選挙は、笹野恵理子、西野晴香、鈴木慎一郎の3名が選挙管理委員会のメンバーとして、業務を担当いたします。間違いが起こらないように慎重に取り組みたいと考えています。

委員会の任務は右の7点です。前回の選挙の日程を参考に、みなさまのご協力を得ながら、任務を滞りなく進めたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

1. 選挙管理委員会の任務:

- 1) 選挙日程の作成
- 2) 選挙資格者及び被選挙資格者名簿の作成
- 3) 選挙の公示
- 4) 投票用紙の作成・送付
- 5) 投票用紙の回収・開票
- 6) 選挙結果の報告
- 7) 2016-17年度役員決定の事務手続き

2. 選挙日程:

選挙公示	2015年11月30日(月)	於:「ニューズレター No.2」誌上
推薦・立候補受付期間	2016年1月4日(月)～2月4日(木)	当日消印有効
被選挙人名簿、投票用紙等の作成・送付	2016年2月8日(月)	於:学会事務局
投票期間	2016年2月15日(月)～3月16日(水)	当日消印有効
開票・選挙結果を会長へ報告	2016年3月23日(水)	於:学会事務局

3. 選挙実施方法: 以下の規定に基づいて進めます。

日本音楽表現学会選挙規定

1. 選挙方法は無記名投票による。	が特定できる記載がなされているときは、その投票はすべて無効とする
2. 投票権者の確認は、返信用封筒に記された発信人名によって行う。発信人名の記入が無いときは、封入されたすべての投票は無効とする。	8. 選挙管理委員会は、当選者、次点者および次々点者の氏名と順位、得票数を選挙結果報告書に記載し、開票に立ち会った委員全員の署名を付して会長に提出するものとする。
3. 投票権者は、選挙管理委員会指定の投票用紙を用いて、定められた期日までに委員会に到着するように投票しなければならない。理由の如何を問わず、代理投票は認められない。	【附則】
4. 候補者が定数を超える場合には、投票用紙には、定められた人数以内の被選挙人名を記入するものとし、これを超えて記入した場合は全部無効とする。	1. 役員の任期は当該年度7月1日から始まるものとする。
5. 候補者が定数と同数の場合には信任投票とし、投票用紙に記載された候補者名簿の信任する被選挙人の氏名の上に○印を記入するものとする。	2. 役員に欠員を生じたときは、就任の日から6カ月以内ならば次点者を繰り上げ当選とし、6カ月を越えた場合には、原則としてすみやかに選挙を行い、これを補充する。但し、その任期は前任者の残任期間とする。
6. 投票用紙の記載が不明確な票については、選挙管理委員会が有効か無効かの判定を行う。	3. 本規定は2004年2月1日から実施する。
7. 投票用紙または投票用紙用小封筒に、投票者名	4. 本規定は2010年6月12日から実施する。
	5. 本規定は2012年6月23日から実施する。

4. 選挙公示：選挙規定に基づいて、2016-17 年度役員選挙を以下のように公示します。

2016-17 年度役員選挙公示

2015 年 11 月 30 日

日本音楽表現学会会員のみなさま

日本音楽表現学会選挙管理委員会

日本音楽表現学会会則第 11 条、12 条および、日本音楽表現学会役員選出に関する内規に基づき、2016-17 年度の役員選出のための選挙を下記のように行います。

記

選出役員：会長 1 名、理事 8 名

任 期：2016 年 7 月 1 日（金）～ 2018 年 6 月 30 日（土）

方 法：推薦・立候補制

推薦・立候補受付期間：2016 年 1 月 4 日（月）～ 2 月 4 日（木） 当日消印有効

被推薦者・立候補者の公示：2016 年 2 月 8 日（月）

投票方法：無記名投票で郵送

投票期間：2016 年 2 月 15 日（月）～ 3 月 16 日（水） 当日消印有効

開 票：2016 年 3 月 23 日（水）

（結果を即日会長へ報告、ニューズレター 2015-No.3 に掲載）

結果承認：2016 年 6 月 4 日（土） 於：2016 年度総会

5. 会長・理事の推薦・立候補に関する手続き：

推薦・立候補に関する手続きは以下の通りです。本学会の充実と発展のために会長と理事に相応しいと思われる方を候補として選出します。会員のみなさまの積極的な推薦や立候補をお待ちします。

2016-17 年度会長・理事の推薦・立候補に関する手続き

1. 推薦・立候補受付期間：2016 年 1 月 4 日（月）～ 2 月 4 日（木） 当日消印有効

2. 提出書類：（選挙の告示時に公表）

1) 推薦の場合：以下の 2 点を提出して下さい。なお、様式は（様式 1～4）をご参照下さい。

・ 1 名の推薦につき、推薦者 2 名と推薦理由 A 4 用紙 1 葉

・ 本人の承諾書と簡単な経歴、主な研究業績 5～10 点 A 4 用紙 1 葉

2) 立候補の場合：以下の 2 点を提出して下さい。なお、様式は（様式 5、6）をご参照下さい。

・ 学会に関するポリシー A 4 用紙 1 葉

・ 本人の簡単な経歴、主な研究業績 5～10 点 A 4 用紙 1 葉

3. 郵送先：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

日本音楽表現学会事務局内 選挙管理委員会（当日消印有効）

<p>(様式1) 2016--17年度会長選挙推薦用紙</p> <p>年 月 日</p> <p>以下の会員を会長候補者として推薦いたします。 被推薦者氏名： _____ 推薦理由： _____</p> <p>推薦者氏名(自署)： _____ 推薦者氏名(自署)： _____</p>	<p>(様式2) 2016--17年度会長選挙推薦承諾書</p> <p>年 月 日</p> <p>会長候補者としての推薦を承諾いたします。 被推薦者氏名(自署)： _____ 経歴： _____</p> <p>主な研究業績(5～10点)</p> <p>_____</p> <p>_____</p>	<p>p.1</p> <p>(様式5) 2016--17年度会長選挙立候補用紙</p> <p>年 月 日</p> <p>私は、会長候補者として立候補いたします。 立候補者氏名(自署)： _____ 学会に関するポリシー： _____</p> <p>_____</p>	<p>p.2</p> <p>経歴： _____</p> <p>_____</p> <p>主な研究業績(5～10点)</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>学会等における活動</p> <p>_____</p>
<p>(様式3) 2016--17年度理事選挙推薦用紙</p> <p>年 月 日</p> <p>以下の会員を理事候補者として推薦いたします。 被推薦者氏名： _____ 推薦理由： _____</p> <p>推薦者氏名(自署)： _____ 推薦者氏名(自署)： _____</p>	<p>(様式4) 2016--17年度理事選挙推薦承諾書</p> <p>年 月 日</p> <p>理事候補者としての推薦を承諾いたします。 被推薦者氏名(自署)： _____ 経歴： _____</p> <p>主な研究業績(5～10点)</p> <p>_____</p> <p>_____</p>	<p>p.1</p> <p>(様式6) 2016--17年度会長選挙立候補用紙</p> <p>年 月 日</p> <p>私は、理事候補者として立候補いたします。 立候補者氏名(自署)： _____ 学会に関するポリシー： _____</p> <p>_____</p>	<p>p.2</p> <p>経歴： _____</p> <p>_____</p> <p>主な研究業績(5～10点)</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>学会等における活動</p> <p>_____</p>

6. 2016-17 年度 会長・理事選挙被選挙・選挙有資格者について

投票権者は被選挙人名簿作成期日（2016年2月8日）の時点で日本音楽表現学会の会員資格を有する者です。参考のために現時点（2015年11月30日）での会員氏名を記載します。なお、音楽活動を本名以外で行っていらっしゃる方については、そちらの氏名を表示しています。

囲みの付された会員は今年度で2期目を終了する会長であり、今回、会長について被選挙権はありません。下線を付した会員は今年度で2期目を終了する理事であり、今回、理事について被選挙資格はありません。また、網掛けを付した会員は選挙管理委員であり、会長、理事ともに被選挙資格はありません。

相澤 和子	稲木 真司	岡崎 章	金城 厚	久野 将健	阪本 幹子
相澤 実沙	伊野 義博	岡田 孝	ガハブカ奈美	久保田葉子	佐川 馨
赤木里香子	井上 綾乃	岡林 典子	鎌倉 亮太	熊谷沙也加	崎山 弥生
阿方 俊	井上 幸子	岡部 裕美	上山 典子	熊谷百合子	佐久間真理
赤松林太郎	井上 朋子	岡本 茂朗	神山 裕子	熊谷 綾子	酒匂 淳
阿久津東眞	井上ヒロミ	岡元 みわ	亀井 貴幸	久万田 晋	佐々木恵利子
阿久津 巴	井下 べに	小川 純一	加茂下 稔	倉戸 テル	佐々木 茂
浅井 暁子	井花 範子	小川 有紀	河合 紳和	黒宮 可織	佐々木正利
浅井 芳子	今尾 滋	小川 容子	川口 容子	劔持 清之	佐々木まり子
安積 京子	今田 匡彦	奥 忍	川島 圭太	古庵 晶子	佐々木幹雄
浅田 剛史	上田 益	奥坊由起子	河内 勇	国府 華子	佐々木陽子
浅野 清	上野 仁	奥村 治	川端 美穂	郷津 幸男	笹野恵理子
疇地 希美	上野 正人	奥村 正子	河原 千尋	神月 朋子	佐藤 淳一
足立 広美	上羽 広明	小栗 志乃	川辺 里美	小島 千か	佐藤 淳一
阿部 真子	上原由記音	尾崎 浩一	河村 祐子	小寺未知留	佐藤万佐子
阿部 雅人	宇治田仁美	尾崎 祐司	河村 義子	古寺 有希	佐藤美彩穂
阿部 祐治	牛渡 克之	小野 文子	川本 素子	後藤 丹	佐藤裕美子
阿部亮太郎	内田 博世	小野 亮祐	河本 洋一	後藤友香理	佐野 晴美
網屋 太郎	内山 尚美	小原 一穂	川本 麗乃	小西 潤子	佐野 仁美
荒川 恵子	馬田 一郎	尾見 敦子	菅 道子	小畑 郁男	澤田まゆみ
荒木 善子	梅原 圭	甲斐万里子	神部 智	小波津美奈子	志賀友加里
有満 玲子	梅村 憲子	海津 幸子	Friederike KIENLE	小林 冬子	志民 一成
安藤 珠希	浦 雄一	在原 泉	北浦 孝和	小林 未季	篠原真紀子
安藤 政輝	江頭 義之	柿崎 倫史	北川 純子	小林 佳子	篠原 盛慶
安藤 園子	江口 文絵	檜下 達也	北山 敦康	駒 久美子	柴田 貴子
李 敬美	江田 亮太	梶村 有美	木野村雅子	小森 光紗	柴谷 祐子
飯島 元子	越後小百合	片野 郁子	木下 和彦	小山 和彦	柴山いづみ
五十嵐睦美	海老原あゆみ	勝谷 友一	木下 太陽	今 由佳里	柴山 貴大
池之内ひろみ	應和 恵子	勝部 健作	木下 千代	紺谷 志野	澁谷 由美
石井 哲夫	大石 幸史	桂 博章	木村 貴紀	近藤 晶子	嶋田 由美
石井 玲子	大内 邦靖	加藤あや子	木村 博子	権藤 敦子	島野 聖章
石川眞佐江	大北 沙織	加藤内蔵進	木許 隆	近藤 真子	島袋 君子
石田 実和	大澤 聡	加藤富美子	木本麻希子	近藤 春恵	清水 真実
石田 雪子	大竹 紀子	加藤 晴子	木本 雅子	齋藤 武	清水 稔
石場 惇史	大谷 正和	加藤 博行	桐山 由香	齊藤 祐	清水 慶彦
石原 慎司	大野内 愛	門脇早聴子	草下 實	三枝木宏行	下清水 広
一橋 和義	大場 俊一	金井 由樹	久次米祐江	酒井 勇也	次郎丸智希
伊藤 陽平	大場 文恵	金谷 康祐	久住庄一郎	榊原 明子	新海 節
糸数ひとみ	岡 健吾	兼重 直文	久野 一典	榊原 祐子	新宮 央子

新山王政和	田中 路	中村 隆夫	平野 亘	三塚 至	山下 敬子
末永 雅子	田中 巳穂	中村 文緒	広瀬 友美	道籟 維子	山下真由美
須賀麻里江	田中 慈子	中森 千春	廣畑まゆ美	光平 有希	山田 克巳
菅野 雅紀	田中 恭平	中山裕一郎	深井 尚子	水戸 博道	山田 啓明
菅原 雄樹	田邊健太郎	中山 由美	福島さやか	南 夏世	山田まゆみ
杉江 淑子	谷 真子	渚 智佳	福富 彩子	三村 晶子	山田 貢
杉山 雄一	谷口 雄資	鍋島 史	福西 朋子	宮里朝一郎	山名 敏之
鈴木慎一朗	谷村 宏子	成川ひとみ	福本 康之	宮田 知絵	山中佑起子
鈴木 雅宣	田村 佳奈	難波 純子	藤井 正子	宮本賢二郎	山本 千紗
鈴木美樹子	塚田かおり	新山 眞弓	藤井 康之	虫明眞砂子	山本 雅一
鈴木佑未子	津田安紀子	新山 隆健	藤田 光子	村尾 忠廣	山本 学
須藤 英子	堤あゆみ	西田 紘子	藤野 祐一	村岡 哲至	山本由紀子
ズビャーギナ 章子	鶴澤友球	西野 享丸	藤範登志美	村上 理恵	横井 喜彦
李沢 有希	寺内 大輔	西野 晴香	藤本いく代	村田 睦美	吉澤 恭子
曾田 裕司	照屋ナツキ	西野 真史	藤本 逸子	明和 史佳	吉澤 実
高木彩也子	土居 知子	西野 洋子	藤原 嘉文	目黒 雅子	吉田 治人
高木麻衣子	董 芳勝	西村 理	舟橋三十子	茂木 美和	吉田 秀晃
高木 裕美	戸川 晃子	西脇 郁乃	別所 友希	望月たけ美	吉田 秀文
高久 新吾	時得 紀子	似内裕美子	逸見 学伸	初山 陽子	吉田 亮太
高沢 学	常磐津文字兵衛	二宮英美歌	宝福 英樹	森 恭子	吉田 恵子
高瀬 瑛子	徳永 崇	丹羽亜希子	前北 恵美	森 正	吉田 菜月
高田七津子	外崎 麻子	丹羽ひとみ	前田 則子	森田 千智	吉永 早苗
高橋依璃佳	富川 勝智	野崎 博子	町田百合絵	森永治之介	吉永 誠吾
高橋 慧	友永 和恵	野本 立人	松井 典子	森本 英希	吉野 秀幸
高橋 千絵	土門 裕之	袴田 和泉	松井 萌	諸田 大輔	吉村 哲
高橋 知子	豊田 秀雄	狭間 由香	松浦 伸吾	諸富満希子	ラーセンみどり
高橋 範行	豊田 典子	橋本 智明	松浦 光男	八重樫千尋	劉 麟玉
高橋 豊	中 磯子	橋本 のり	松岡 貴史	八木 絵未	若井 健司
高旗 健次	仲 万美子	長谷川正規	松岡 貴史	八杉 忠利	鷺尾 惟子
高嶋 克己	長尾 智絵	花田 三幸	松川 恭子	安田 香	鷺野 彰子
田上 耕三	長岡 功	英 美生	松川 能子	安田 健太	和田 紘平
滝田 善子	永岡 都	羽広 志信	松前 良昌	柳井 修	渡辺 愛
竹内 直	永岡和香子	早川 倫子	松本 進	矢内 淑子	渡辺 明子
竹下可奈子	中根 庸介	林 智草	松本 直子	柳沢 信芳	渡辺 修身
武知 優子	中嶋 俊夫	林 睦	丸林実千代	柳田 憲一	渡部 成哉
武本 京子	中島 直己	原 佳大	三木 康子	山内 昌也	渡辺 優子
田島 孝一	中島 涼子	原田 宏司	三沢 大樹	山賀 英美	渡辺 有美
田代 和久	長瀬 正典	原田 博之	三島 郁	山崎 英明	渡会 純一
田隅 靖子	中楯 有起	原田 優里	水野 麻美	山崎 浩隆	
多田 純一	中辻 孝依	坂東 肇	水村さおり	山崎 正嗣	
多田 繭子	仲戸川智隆	比嘉 康春	見田 寛		
伊達 優子	長友 洋喜	檜垣 智也			
田中 純	中西 紗織	樋口 英子			
田中 拓未	中野 里美	日高 桃子			
田中 宏明	中畑 淳	尾藤 弥生			
田中 麻貴	中村 滋延	平尾多美納			
田中 幹子	中村 順子	平野 俊介			

以上 2015年11月30日現在 選挙権者 493名
 会長被選挙権者 489名
 理事被選挙権者 486名

雑学あれこれ

應和恵子（声楽・財務担当理事）

宮城県に「河北新報」という地元紙がある。「河北新報」は、仙台に本社を置く東北地方のブロック紙で、宮城県を中心に読まれている日刊新聞である。明治30年、経営難の「東北日報」を引き継いだ初代社長が「河北新報」と改名した。

これには興味深い話がある。明治維新の際、新政府群を率いる薩長は、東北地方のことを【白河以北一山百文】と呼んだ。「白河の関（福島県の南部、白河市にあり、『奥の細道』にも登場する、東北地方への関所の一つ）」より北、すなわち、「河北は、山ひとつでも100文の価値しかないと、蔑んだのである。

薩長のこの侮蔑的な呼び方が広まるにつれ、明治時代の東北人にとって、「河北」は単なる位置関係を表すものではなく、反骨精神を意味する言葉となった。河北新報の初代社長は、東北の意地を見せるべく「河北新報」としたのである。

現在、仙台に住んでいる私は、そのようなニュアンスで言われるのを聞いたことはないが、東北人の奥深さは常に感じている。余談であるが、【白河以北一山百文】は、岩手県出身の平民宰相・原敬の号「一山」の由来ともなった。

ローカルな歴史から入ってしまったが、たまたま、その河北新報（2011.11.8）を読む機会があり、面白そうなコラム「河北春秋」を見つけた。一部引用する。

「完璧な人間とは」というジョークがある。ロシア人のように酒を飲まず、韓国人のように忍耐強く、日本人のようにユーモアがあり、英国人のように料理し、フランス人のように運転し、オランダ人のように気前がよく、イタリア人のように冷静で、ギリシャ人のように時間を守る。

ジョークであるから、この逆であると言っているのだが、それがすべての国民に当てはまるはずはない。また、悪く取られると「差別だ」「悪口だ」と言われかねない。しかし、確かにそういう面はあるなあと、思わずニヤリとしてしまう。このような民族性や国民気質を皮肉ったジョークは、エスニックジョークと言うのだそうである。

音楽関係者がよく使う外国語を比較した雑学をも一つ紹介する。

【英語】は、立場の異なる者も同じ“I”と“You”で会話をする。平社員も社長に向かって“You”と言える。従って、英語は会議をするのに適しているのではないか。

【イタリア語】の母音の数は、英語やフランス語のように多くない。母音の数が多くないので、高音でも母音の区別が付けやすく、聞き取りやすい。オペラもイタリアで誕生し、発展した。しかも、イタリア人が情熱的であることは世界中が認めている。やはり、イタリア語は愛を歌うのに適している。

【フランス語】は、本来は明瞭な発音で話される言語であるが、愛をささやくのに良い。耳元で“Je t'aime! Je t'adore!”と息混じりでささやかれたら、フラットとなるかも知れない。

【ドイツ語】は、他の言語に比べ、子音が多く、しかも、鋭くしっかり発音されなければならない。たとえ“Ich liebe dich”でも、子音を鋭く、大声で発音されると、街頭演説であるかのように聞こえる。ドイツ語は演説をするのに適しているようだ。

私はこのような雑学が大好きである。集中力の切れた受講生の興味を引いたり、お酒の席での話題にも使える。雑学であれ、専門の分野であれ、知識を深めることは本当に楽しい。ただ、最近は本や新聞を読む時間も少なくなった。

左段のコラムは、ジョークの最後に挙げた、ギリシャの財政危機を取り上げたコラムであった。ギリシャの現状として、“昼休みを3時間取って昼寝する”“早めに引退して高い年金を貰う”等と続け、最後に、

金融や経済のグローバル化は人々に勤勉さを求めてやまない。仕事はほどほどにして青い海を眺め、貧しさは気にせず、のんびりと。世界にそんな国があると思うだけで、ちょっと救われる気もするのだが。

と結んでいる。全く同感である。

国際上演芸術の科学シンポジウム (ISPS) に出席して

1. シンポジウム概要

酒井勇也 (サクソフォン・音楽教育)

9月2日から5日にかけて、京都の龍谷大学で International Symposium on Performance Science (ISPS) が開催されました。ISPSは、2年に1回実施される国際会議です。今回は第5回目で、「パフォーマンス教育」というテーマで、世界各国の演奏家や研究者が集い、口頭発表やポスター発表などをおこないました。

大会初日のプログラムは、オーストラリアの Gary McPherson 博士の音楽天才児に関する基調講演、西本願寺ツアー、人形浄瑠璃、アバターのダンスパフォーマンスでした。ツアーやパフォーマンス鑑賞では、海外からの参加者が日本の文化に興味津々で大変盛り上がりおりました。

2日目以降は、演奏やダンスなどのパフォーマンスに関する講演・口頭発表・ワークショップ・ポスター発表などが、毎日朝8:15からぎっしり詰まっており、なかなかのハードスケジュールでしたが、質疑応答や意見交換がとても活発におこなわれていました。日本ではあまり見られないような研究も多く、研究の幅を広げる有意義な経験になったと思います。

すべて英語という言葉の壁はありますが、ジーンズの参加者も見られるようなカジュアルな会議ですので、是非次回参加されてみてはいかがでしょうか。

2. 発表者の視点から

馬田一郎 (認知科学)

京都の龍谷大学で開催された ISPS2015 に参加し、ポスター発表をおこないました。会議参加者は欧米・アジアの様々な地域からバランス良く集まっており、研究対象も音楽の他にもダンス等の身体芸術など様々でした。

音楽分野については、発表のトピックも教育・パフォーマンス・音楽製作支援など多岐に渡っており、普段あまり馴染みのない分野の発表を聴くことができて、大いに刺激を受けました。

自身の研究としては、児童の創作演奏・創造的思考力・性格傾向の相関についてポスター発表を行いました。ポスター会場は比較的スペースにも余裕があり、議論しやすい環境でした。自分とは異なる研究背景や文化的背景を持つ多くの研究者と時間をかけて討論することができ、大変参考になりました。今回の会議で得られた成果を今後の研究活動に生かしたいと考えております。



ISPS ポスター発表風景

新入会員紹介

2015年8月1日～11月15日までに次の方々が入会されました。相澤和子さん、梶村有美さん、谷真子さん、中根庸介さん、松川恭子さん、三塚至さん、ラーセンみどりさんが入会されました。8月1日以降11月20日までにお送りいただいた自己紹介文を掲載します。

あいざわ かずこ
相澤 和子さん 専門はピアノです。現在、ピアノの指導を中心に伴奏の活動もしております。様々な分野で活躍されている皆さまの研究に触れさせていただきながら、指導法、演奏法を深めていきたいと思い入会させていただきました。

かじむら ゆみ
梶村 有美さん 専門はピアノです。初歩の生徒さん達を指導する中、どのようにしたら音楽を望む子どもさん達それぞれに、最適な手助けをしてあげられるのだろうかと考えようになりました。プラハにてチェコのピアノ教育を学ぶ機会があり、誰もが自然に持っている、音楽をしたい気持ちに寄り添う指導法に関心を持ち、試行錯誤の日々です。

きのむらまさこ
木野村雅子さん すべての音楽演奏（活動）においても、豊かな表現力が求められています。関わっている音楽活動がより深まりのある音楽表現となるよう、生涯にわたり研鑽を積みたいと考えています。

くじめゆうこ
久次米祐江さん 専門はピアノです。ジョン・ケージを中心にその周辺の作曲家の作品研究及び演奏をしております。年1回程度のリサイタル、自宅サロンでの研究会を通して演奏と指導法についての研究を深めつつ、さらに様々な音楽表現の研究に触れて視野を広げていけたらと考えております。

たに まさこ
谷 真子さん ピアノ。この度新しく入会致しました谷真子と申します。演奏活動を続けながら現在は神戸大学大学院博士課程前期課程で「シューマンにおける演奏法と解釈」の論文を執筆致しております。私のホームページ・アドレスは <http://masakotani.co> です。

なかね ようすけ
中根 庸介さん 専門はオーボエです。東京芸術大学管弦楽研究部にてオーケストラ奏者として活動のうち、3年前より滋賀大学教育学部に着任致しました。大学ではリコーダーの授業や鍵盤ハーモニカでの合奏など幅広く授業を担当しております。オーボエの指導は非常勤講師として大阪教育大教養学科にて担当しております。

まつかわ ひろこ
松川 恭子さん 専門はグランドハーブです。昨年まで、フランスで近代・現代音楽のハーブ作品を中心に勉強をしていました。今後も、20世紀の偉大な作曲家達が残した作品を学び続け、また継承したオリジナル奏法や解釈を発表しながら、楽器の特性を生かした現代奏法による音楽表現の可能性について、研究をしていきたいと考えております。

みつづか いたる
三塚 至さん 音楽（声楽） 感性表現学 教育的環境 先進音楽教育学。音楽を西洋音楽に偏向した概念に収めるのではなく、生活環境に含有するあらゆる情報を、文科、理科、様々な学問の枠を超えた音楽の無限の潜在的可能性と捉え、これからの新しい音楽教育研究発展に役立てたいと思っています。

ラーセンみどりさん ピアノ演奏において、「動き」と曲の習得の関わりについて研究をしています。リトミックなどの音楽を学ぶ上で有効な「動き」と、演奏中の「動き」の両方に興味を持っています。日本の高校を修了後、アメリカの大学にてピアノを専攻、その後修士、博士へと進みました。現在はニューヨークの私立校にてピアノ講師をしています。

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

石原慎司さん **秋大祭特別オーケストラ音楽会**
 日 時：2015年10月17日（土）12:00~
 会 場：秋田大学60周年記念ホール
 主な内容：石原慎司の指揮でハイドン、モーツァルトのオーケストラ作品（合唱付き含む）の演奏を行う。
 連絡先：秋大祭特別オーケストラ実行委員会 shudaisaisporchestra@yahoo.co.jp
 主催：秋大祭特別オーケストラ <http://music.geocities.jp/shudaisaisporchestra/>

杉山雄一さん **杉山雄一ヴィオラリサイタル**
 日 時：2015年11月25日（水）19時開演
 会 場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院 小ホール
 主な内容：藤井修：独奏ヴィオラのための「ベン・シャーンの絵」
 P. カルマノフ：スタジアムの2度目の雪
 A. ルービンシュタイン：ヴィオラとピアノのためのソナタ
 演奏者：杉山雄一（ヴィオラ） 杉山智子（ピアノ）
 料 金：一般3,500円 学生1,500円

大内邦靖さん **作曲家の会「環」第32回演奏会（石桁真礼生誕生100周年記念演奏会）**
 藤原嘉文さん
 日 時：2015年12月4日（金）18:30開演（18:00開場）
 会 場：東京オペラシティ リサイタルホール
 主な内容：石桁真礼生歌曲3作、及びその門下生の最近作全12作品
 藤原嘉文「西風の記憶～トロンボーンとピアノのための」
 (trb. 大内邦靖、pf. 藤原嘉文)、他。
 料 金：一般4,000円、学生3,000円

中村隆夫さん **ヘンデル「メサイア」演奏会**
 日 時：2015年12月19日（土）13:30開演
 会 場：ちえりあホール
 主な内容：「メサイア」全3部から一部割愛
 演奏者：<指揮>中村隆夫
 <ソプラノ>一鐵久美子、<アルト>村中朋見
 <テノール>宇佐美大作、<バス>中原聡章
 <合唱・合奏>札幌コダワイ合唱団・合奏団

中村滋延さん 九州の作曲, 50年

日 時: 2016年1月9日(土) 13:30開演 (13:00開場)

会 場: ちえりあホール

趣 旨: この50年間の九州の現代音楽の名作と新作を文化資源として紹介・上演する。

主な内容: 今史朗, 中村滋延, 小寺未知留, 小畑郁男, 三村恵章, 他の作品上演

連絡先: 中村滋延 092-553-4553 mail: nkmrsgnb@gmail.com

高木麻衣子さん 高木麻衣子ピアノリサイタル

日 時: 2016年3月24日(木) 19:00開演

会 場: カワイ表参道コンサートサロン「パウゼ」

主な内容: リヤードフ / 3つの小品 Op.57 よりプレリュード、舟歌 Op.44 他

演奏者: 高木麻衣子、酒匂淳

料 金: 3,000円

はざまゆかさん はざまゆか鍵盤ハーモニカの魅力〜クラシックからポピュラーまで〜

日 時: 2016年3月18日(金) 19:00開演

会 場: 松本市音楽文化ホール(小ホール)

演奏者: はざまゆか(鍵盤ハーモニカ) 吉田桂子(ピアノ) 森川由美(エレクトーン)

演奏曲目: 剣の舞、リベルタンゴ、鳥の歌古典交響曲(初演)「くるみ割り人形」メドレー
フルートソナタ k.v.14(モーツァルト) 他

主 催: ムジカコンパス

料 金: 2000円(全席自由)

問 合 先: 0263-26-4762(ムジカコンパス)

会員による新刊

安藤政輝さん 安藤政輝編 箏・三絃・尺八対照譜

「宮城道雄作曲集」《千代の寿》《軒の雫》

甲楽出版 kouraku@kisoukai.org

『音楽表現論文執筆のしおり 2015年版』刊行

音楽表現について文章を書くための易しい手引き書『音楽表現論文執筆のしおり 2015年版』が完成しました。『音楽表現学』への投稿論文では、かけがえのない視点を持ちながらも、文章表現、論文構成に問題があるために執筆者の創意が伝わらない原稿が少なくありません。話をするときには相手に理解される内容も、文章になると些細なことが災いして伝わりにくくなるのです。

『しおり 2015年版』では、音楽表現についての様々な考えを文章化する「コツ」をいくつかの文例をあげて、示しています。ぜひお手にとってお読みいただき、ご自分の文章作法の参考にしていただければ、と考えます。

また、資料として「音楽表現研究に関わる著作権について」解説を記載しました。音楽表現には大学などでの配布物に見られるような一般的な著作権の他にこの分野独自の著作権が存在します。文章だけでなく「大会発表」等でも音源や映像を使用することが少なくありません。会員のみなさまの各種研究発表が著作権をクリアできるよう願っています。

『音楽表現学』への投稿、「大会発表」には『しおり 2015年版』を是非ご参照ください。また、日常の研究活動や教育活動に広くご活用ください。

第 14 回大会発表募集

このニューズレター最終頁の案内にありますように、第 14 回大会が 2016 年 6 月 4 日（土）～5 日（日）に拓殖大学北海道短期大学で開催されます。ついては、会員のみなさまの発表を以下のとおり募集します。日本音楽表現学会では音・音楽表現の例示のために他学会よりも発表時間を長くしています。日頃のご研究をお持ちよりいただき、会員のみなさまと共有、意見交換をしませんか。多数のお申し込みをお待ちしています。

～ ～ ～ ～ ～ 記 ～ ～ ～ ～ ～

発表形態と時間：

研究発表	会員個人による研究発表 30 分と質疑 10 分	40 分
共同研究	2 人以上の共同による研究発表と質疑	内容により 40 分または 90 分
ワークショップ	実践体験を含むプレゼンテーションと質疑	内容により 40 分または 90 分
デモンストレーション	VTR 作品上映などと質疑	内容により 40 分または 90 分

発表申込：発表申込：発表タイトルと発表形態および 200 ～ 400 字の発表要旨を下記の様式にしたがってお申し込みください。

〆 切：2016 年 2 月 29 日（月）

申 込 先：学会事務局 music-expression@music-expression.sakura.ne.jp 宛にお送りください。

* 『大会要項』原稿についての詳細は、申込受付後に申込者にお知らせします。

申込様式

日本音楽表現学会第 14 回大会に発表を申し込みます。

1. 氏 名 _____

2. 連絡先住所 〒 _____

電 話 _____

E-mail _____

3. 発表形態と題目 該当欄に○をつけてください。

() 研究発表 題目 _____

() 共同研究 題目 _____

希望所要時間 () 40 分 () 90 分

() ワークショップ 題目 _____

希望所要時間 () 40 分 () 90 分

() デモンストレーション 題目 _____

希望所要時間 () 40 分 () 90 分

4. 発表要旨 (200 ～ 400 字)

事務局からのお知らせとお願い

1. 『音楽表現学』Vol.13 刊行と Vol.14 投稿募集のお知らせ

『音楽表現学』Vol.13 をお届けいたします。4本の応募論文・報告が掲載されています。機関誌の充実は学会の成長の証しです。Vol.14 についても皆様からのますます活発なご投稿をお待ちいたします。

2. 会費納入について

○年会費未納の方には、今回「未納年会費納入のお願い」を同封しています。学会のすべての活動は皆様方の年会費で運営されております。機関誌の発行、大会の開催などさまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。なお、会則により、3年以上年会費滞納の場合には会員を「除名」となりますので、ご注意ください。(行き違いご送金済みの場合はご容赦ください。)

○年会費については『音楽表現学』巻末に「経費関係細則」を掲載していますので、ご参照下さい。なお、学生会員は、学部生に限られます(会則第5条)。

○納入は必ず郵便振替でお願いします。無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、右側の「振替払込請求書兼受領証」(ATM ご利用 の時は「ご利用明細票」)に、納入年度のメモをお残しいただくことをお勧めいたします。なお、学会では原則として改めての領収書発行はいたしておりません。

* 以上、ご不明の点につきましては、事務局までお問い合わせ下さい。

3. 正しいメールアドレスと連絡先をお届け下さい!

事務局では、さまざまなお知らせをメール配信いたしておりますが、リターン・メールがつねに何通かあります。「最近何も届いていない」という場合、お届けのアドレスが旧アドレスのままである可能性があります。事務局にお問い合わせ下さい。また、メールアドレス・連絡先ご住所等を変更された場合には、下記アドレスから「会員情報フォーム」にてお届けいただくか、もしくは事務局までメール等で直接お知らせくださいますよう

にお願い申し上げます。

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

4. 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

ご希望の方はメール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いいたします。

会員価格：Vol.2～Vol.3 は 1部 1500円+送料

Vol.4～Vol.11 は 1部 3000円+送料

一般価格：Vol.2～Vol.3 は 1部 3000円+送料

Vol.4～Vol.13 は 1部 3500円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。

なお、Vol.1 は残部がありません。

5. ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見、掲載記事に関するご意見などを掲載します。テーマは自由です。皆様のご投稿をお待ちします。

- ・研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上がり1頁以内
- ・コンサート案内：学会後援(申請については後述)のものを掲載します。
- ・新刊案内・CD/DVDリリース案内：会員による刊行物等の紹介を行います。上梓されましたら購入方法なども含めてお知らせください。
- ・その他：所属されている他学会の情報などもお寄せください。
- ・投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。
music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

6. 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。本学会は「日本学術団体」の広報協力団体です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度

末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

- ・大会の口頭発表は、これまでの研究を発信し、それを参加者一同と共有する場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その妥当性を問うワークショップなど、日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。
- ・コンサート・出版物等の後援または協賛のご案内：会員による各種演奏、ワークショップ、イベント、出版物の刊行などの活動を学会は「後援」または

「協賛」します。

7. 各種書式

以下の書式にて、メール本文貼り付け、またはワード文書添付、あるいは郵送で事務局まで送付してください。

学会事務局メールアドレス：

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

学会事務局所在地：

〒616-8025

京都市右京区花園土堂町1-6

1. 「入会申込書」書式

入 会 申 込 書 日本音楽表現学会に入会を申し込みます。 年 月 日	[備考] <ul style="list-style-type: none">・「入会申込書」を送付いただきましたら、事務局から年会費納入のための郵便振替票を送ります。年会費ご入金の確認をもって手続きを進め、入会承認後、「入会承認のお知らせ」文書をお手元にお届けします。・入会申込書はHPからもダウンロードできます。・学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。
氏 名（ふりがな）： 専門分野： 所 属： 自宅住所：〒 連絡先：（上記と異なる場合）〒 連絡先 Tel.： 連絡先 Fax.： e-mail： 推薦者名（学会員・1名） 音楽表現学会に期待されること。ご意見等：	

2. 「後援願」等書式

学会URL「コンサート出版物等、後援・協賛申請フォーム」からお申し込み下さい。

3. その他 他の書式が必要なときには、事務局へお申し出下さい。

日本音楽表現学会第14回（メム）大会のご案内

会 場：拓殖大学北海道短期大学
 (〒074-8585 北海道深川市メム 4558)

会 期：2016年6月4日(土)、5日(日)

実行委員長：土門 裕之

宿泊ホテル：深川には適当な宿泊施設がありません。

旭川に宿泊されることをお勧めします。

(旭川駅→深川駅 JR特急18分/バス50分)



メム：アイヌ語で「清水が湧いてできた池」を表す。

拓殖大学北海道短期大学へのアクセス

A 「新千歳空港」利用

新千歳空港→札幌駅→深川駅

JR 36分 JR特急 61分
 またはバス 100分

B 「旭川空港」利用

旭川空港→旭川駅→深川駅

バス 35分 JR特急 18分
 またはバス 50分

「深川駅」から「拓殖大学北海道短期大学」
 大学バス特別運行
 空知中央バス約10分/タクシー5分



【参考】旭川—深川間のJR運行と料金事情

- ・特急は30分間隔ですが、普通列車は極端に少ない。
- ・特急利用には、往復のS切符、4枚綴りのS切符フォーがお得です。
 (S切符フォー(1枚あたり)720円 v.s 特急片道通常1,260円)

2015年度役員・委員等一覧

<p>会 長：安藤 政輝 副 会 長：後藤 丹 小西 潤子 事務局 長：奥 忍 財務局 長：小畑 郁男 理 事：豊田 典子 (事務局担当) 應和 恵子 (財務局担当) 藤原 嘉文 (総務担当) 木下 千代 (総務担当)</p> <p>編集委員会： 委員長 中村 隆夫 副委員長 吉永 誠吾 委員 尾見 敦子 上山 典子 齊藤 武 澤田まゆみ 志民 一成 曾田 裕司</p>	<p>『フィールド』編集委員会： 委員長 小野 亮祐 副委員長 安田 香 同 菅 道子 委員 北山 敦康 小西 潤子 杉江 淑子 三島 郁</p> <p>著作権ワーキング： 代表 榎藤 敦子 委員 安藤 珠希 中村 滋延 福永 康之 (近藤 晶子)</p>	<p>選挙管理委員会： 委員長 鈴木慎一郎 委員 笹野恵理子 西野 晴香</p> <p>監事： 谷口 雄資 渡会 純一</p> <p>会長諮問会議：草下 實 佐々木正利 杉江 淑子 安田 香</p> <p>参事：(事務局) 似内裕美子 松井 萌 近藤 晶子</p>
--	--	--

編 集 後 記

毎年12月になると学生の修士論文の仕上げに追われます。演奏には人柄が如実に顕れるものですが、文章も同じです。饒舌な文章、語り口調のもの、感情のこもったものなど、読んでいて日頃の学生たちの顔が浮かんできて失笑を禁じ得ないことがあります。なかにはどこが頭やら尾やらわからない難解な文章もあり、その人の言いたいことと個性をなるべくこわさないように手をいれる作業はけっこう大変です。

このたび当学会「音楽表現論文執筆のしおり」が改編されました。とても分かりやすい内容で役立ちます。すぐさま研究室に置きました。自分自身もまだまだ文章には不慣れですが、練習の過程で音を練り上げていくように、推敲を重ねて論理的で美しい文章をかきたいものです。「音楽表現学のフィールドNo.2」も来年の発行に向けて着々と準備が進んでいます。どうぞお楽しみに！

(木下千代)